

第3章 すべての主体の参加と協働

第1節 すべての主体の参加と協働

今日の環境問題には市民生活や企業活動が大きく関わっており、「低炭素社会の構築」「循環型社会の形成」「快適な都市環境の確保」の実現には、市民・事業者・行政・NPO等が各々の役割に応じ、問題解決に向けた行動を実践することが必要

です。

そのため、すべての主体が環境問題について関心を持ち、正しく理解し、意識を高めること、環境問題の解決に向けた行動を実践することをめざした取組を進めます。

1 環境教育・啓発の推進

(1) 環境学習関連施設

① 環境学習センター（愛称：生き生き地球館）

環境学習センターでは、体験参加型の環境学習の拠点施設として環境情報の提供や学習の機会を提供するとともに、市民やNPO等と連携し、市民や事業者の取組みのリーダーとなる人材の育成に努めています。

ホームページ <http://www.chikyukan.com>



② 自然体験観察園

環境学習センターに隣接し、かつての里山・田園風景を再現し、人と自然との関わり合いを学べる屋外フィールド施設です。

田んぼ・畑を活用した様々な農事体験行事や、毎週日曜日には園内の自然観察会を実施しました。



③ 下水道科学館

都市の暮らしを支える大切な下水道の役割や仕組みなどを、楽しみながら、わかりやすく学んでいただける参加体験型の施設です。

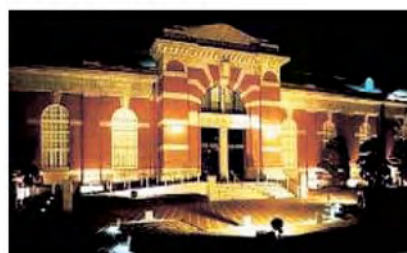


ホームページ
<http://www.osaka-sewerage-e-a.or.jp/gesuidou-kagakukan/>

④ 水道記念館

大阪市の水道の歴史とくらしや琵琶湖・淀川水系について学べる施設です。

平成23年6月現在、107種3,879個体を保有しています。



ホームページ
<http://www.owgs.co.jp/water-museum/>

⑤ 自然史博物館

自然についての資料を収集し、その成り立ちやしくみ、変遷や歴史を、展示や普及活動、研究を通して広く知ってもらう施設です。



ホームページ

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

⑥ 天王寺動物園

動物の生息地にいるような臨場感あふれる生態的展示をとおして環境教育を推進し、種の保存により生物多様性の維持に貢献する新しい動物園を目指しています。



ホームページ

<http://www.jazga.or.jp/tennoji/>

(2) 主な環境教育・学習事業

環境教育・学習の推進に関しては、次の取り組みを中心とした施策を進めてきました。平成23年度については、学校における環境教育を強化するため、新たに、大阪市独自の小中一貫した内容の教材として「(仮称)おおさか環境科」(平成24年度授業開始予定)の副読本及び映像ツールを作成するなど一層の推進を図ります。

① 地域における環境教育・学習

地域二一ズに応じた環境学習会の開催や区民まつり等での啓発を実施しました。

開催回数 20回 参加者数 2,797名

② 子どもの頃からの環境教育・学習

子どもの頃から、地球環境やごみ処理など身近な環境問題への意識の醸成を図るため、施設見学などの参加・体験型事業を実施しました。

ア. ごみ焼却工場等見学者の受け入れ

年間見学者数 1,291団体 31,195名

イ. 親子で学ぼうエコツアーの実施

開催日数 2日 参加者数 60名

ウ. 小・中学校における体験学習の実施

実施数 240回

エ. 「へらそうごみ 守ろう環境」絵画・作文の募集

応募総数 540点

③ 学校における環境教育の推進

各校園において、体験学習や問題解決的な学習を取り入れるなど指導方法を工夫し、各教科や道徳、特別活動等、教育活動全般を通じて環境教育の推進を図っています。社会科副読本「へらそうごみ 守ろう環境」(小学校4・5年対象)や啓発ビデオ「『地球のため』はわたしたちのため」を授業で活用するほか、子ども環境家計簿「こどもエコチャレンジ」に、ご家庭の協力も得て取り組みました。

また、各校園における環境教育の推進を支援するために、「環境教育指導資料(大阪市教育センターWebページ)において実践事例を発表するとともに、環境教育研修会(教職員対象)を実施しています。

④ その他の取り組み

ア. ごみ焼却工場オープンデー

ごみ処理について関心を持ってもらうため、舞洲・平野・東淀の3つのごみ焼却工場を自由に見学できるオープンデーを開催しました。

参加者数 357名

イ. 下水道科学館「夏休みこども教室」

汚水をきれいにする微生物の顕微鏡による観察、